

としょぶらり

米子高专図書館報

ISSN 1344 - 5634

第106号

平成31年2月12日 発行
米子工業高等専門学校図書館

遺伝で決まるもの と決まらないもの

校長 氷室 昭三

グローバル化に対応するため英語力の向上が図られていますが、この語学に関する能力が遺伝的に決まっているかどうかを尋ねられたことがあります。

今、インフルエンザがはやっていますが、感染して重篤な状態になる人もいれば、そうでない人もいます。我々は経験的に知っています。これは一つのウイルスで人類が減びないように、人の遺伝子がそれぞれ違って、人という種を保存してきているからです。したがって、このことからわかることは、人がそれぞれ違った才能をもって、その才能をいかに早く見出すかが重要だということです。

ところが、必ず例外があります。一卵性双生児です。顔にできるしわの出来方も一緒だというから驚きです。以前、アメリカで生まれた一卵性双生児をアメリカとヨーロッパに分けて育て、かなり歳をとってから二人を会わせたという話があります。相手を見て、お互いあまりにも自分に似ていて驚いたそうです。眼鏡をかけている人は、眼鏡をかけていて、お酒の好きな人はウイスキーの銘柄まで一緒、アクセサリーをつけている人は同じアクセサリーをつけていたということでした。特に驚いたのは、自分の子供に付けた名前が一致していたのが30%もいたということでした。これほどまでに遺伝が人を決めているのです。

ただ、違っていたのは、タバコを吸うか、吸わないかと

いうことでした。タバコを吸うということは遺伝的に決められたことではなく、環境によって決まっていることなので、やめよう、という気持ちでやめることができるのです。

言語も環境が決めることだと言われています。フランスに生まれれば、フランス語が流暢になるし、イタリアに生まれれば、イタリア語が流暢になることは事実で、教育とか訓練で何とかできるということなのです。

今の世の中、英語が世界の共通語みたいになってしまったので、英語をできるだけ早い時期に身に付けなければなりません。「日本はいよいよ英語英文の世になった。これだけはいかなる道に進もうとも怠らないように」と、明治18年に福沢諭吉が長男にあてた手紙に書いてありました。

もちろん、英語を流暢に話せるだけではダメで、他の人がもっていない、遺伝で決まっている自分に特徴のある特有の能力をもっていなければなりません。勉強して他の人がもっていない能力を早く見出して自分のものにするのとそれを伝えるための語学をきちんと勉強しておくことが大事です。

しかし、残念ながら人は自分がもっている才能をなかなか知ることができません。どうやって自分の才能を見出すかという自分自身をいろいろなことに曝す、つまりいろいろと経験するしかないのです。いろいろな経験をして自分で咀嚼し、消化し、同化する能力を身につけないと自分のものにならないのです。そこには自分を向上させたいと思い、人に頼らず、自分を頼りとして自分を鍛えるという「自鍛自恃」の気概がないと経験はわがものにならないと思います。「自らを鍛え、自らに恃(たのむべし)」を心がけてください。

目次

| | |
|--------------------------------------|----|
| 遺伝で決まるものと決まらないもの | 1 |
| 2018年度校内読書感想文コンクール優秀作品発表 | 2 |
| 2018年度校内読書感想文コンクール 概要と選評 | 16 |
| 2018年度校内読書感想文コンクール表彰者について(記念撮影、審査結果) | 16 |
| 新着図書一覧(学科推薦図書) | 17 |
| 新着図書一覧(平成30年7月～12月) | 18 |
| 2018年度文化セミナー報告 | 20 |
| 「高専生が選ぶ18冊」 | 20 |
| ブックハンティングに参加して | 22 |
| 第6回ビブリオバトル(平成30年12月19(水)) | 22 |

最優秀賞

有川浩「塩の街」を読んで

電気情報工学科 1年 岩崎 皓大

僕は、いつも言いたい言葉を飲み込んでしまう。「ありがとう」「ごめんね」の一言でさえ飲み込んでしまう。しかし、この本に出てくる登場人物の姿から、僕は伝えることの大切さに気が付いた。

この本は、突如塩が世界を埋め尽くすことで始まる。この塩害で何万という人が死に、世界は崩壊寸前にまでなっていた。そんな中で出会ったのが、秋庭という一人の男と高校生の真奈だった。塩害が発生しなければ出会うことのなかった二人の前には様々な人が現れ、消えていく。彼らと出会う中で二人はかけがえのない存在となっていく。しかし、相手を思うあまり伝えることを恐れ、すれ違ってしまう。それを、身近に死を感じたことで少しずつ伝え合い、信じあっていく姿を描いたのが、この本の特徴的な部分であった。

僕がこの本を読んで印象的だった部分は二つあった。

一つ目は、二人と出会った遼一という男が、「俺たちが恋人同士になるために世界はこんな異変を起こしたんじゃないか」と言った所だ。遼一は、体が少しずつ塩になっていく塩害にかかり、死んでしまうことがわかっていた。そして、先に塩になってしまった彼女と一緒に海に溶けようと綺麗な海を探していた。結果が死であったとしても、塩害によって二人が結ばれたことが幸せだと後悔しない遼一の姿が強く印象に残った。もし自分が同じ状況に居たら、どうしても二人で生きていたかったと望んでしまうと思う。そして、自分だけでも相手のことを忘れたくないと生きようと思うと思った。

二つ目は、真奈が秋庭に「秋庭さんから聞きたいんです」と言った所だ。この世界では「明日はもう来なくなるかもしれない」状況で、それまでずっとお互いの思いを隠してきた二人だったが、それを伝え合ったことで二人は恋人同士になった。今まで一度も言えず、飲み込んできたことを伝えるのはすごく勇気が必要だったと思う。それでも、たとえ届かなかったとしても、伝えようとした真奈の姿が印象に残った。もし自分が真奈と同じ状況に居たら、明日がもう来なくなる可能性よりも変わらない明日が来る可能性のほうを重視して、言えないままに終わってしまうと思う。そして、今まで一度も言えなかったことを言える日はいつか来るのだろうか、他人事のように考えて、先延ばしにしてし

まうと思う。

僕は、いつも伝えたい言葉を飲み込んでしまう。それは、日々の生活の中で頻繁に起きる。僕は言葉を飲み込むことを積み重ね、それに慣れてしまっていた。思い浮かんだ疑問や意見もすべて飲み込んで、いつの間にか伝えなくてはならないことも飲み込んでしまっていた。

僕は初めてアルバイトをした。何もわからず、いくつも疑問が浮かんできた。しかし、「先輩も忙しそうにしているから」と言葉を飲み込み、自分の判断で行動した。すると、手違いが起こり、結果的に先輩にも迷惑をかけてしまった。この本を読んで、その考えは一変した。真奈のぐずぐずしている自分を奮い立たせる姿に、自分自身の姿が重なり、変わらなくてはならないことを改めて感じた。「何とかなるのかどうかはわからない。だが、少なくとも自分が手を伸ばす自由はある。」という文を読んで僕は、自分の言葉を伝えて解決できるかどうかは考えてもわからないが、言葉を伝えることはできる。という意味に捉えることができた。だから僕は、まず言葉を伝えることに努めた。わからないことがあった時は、アルバイト先の先輩に必ず質問をした。すると、先輩は笑顔で僕の所へ来て、あっという間に疑問を解決してしまった。さらに先輩は、新しい仕事をいくつも自分へ振ってくれるようになり、僕は初めて仕事をして楽しいと感じることができた。

この本を読んで、僕はいつも伝えた後の不安なことばかり考え、伝えるのをためらっていたことに気が付いた。しかし、僕は伝えた後のことを考えるよりも先に、自分の思いを伝えることが大切なのだを知った。そして、自分の思いを伝えることができれば、どんな結果になったとしても言葉を飲み込んでいた時よりも悔いがないことを学んだ。

今後も、伝えた後の不安なことを考えてしまうかもしれない。そんな時にこの本を思い出し、まず伝えることを重視できるよう変わっていきたい。

最優秀賞

ホテルローヤル

物質工学科 1年 二司 佑菜

恋愛小説とは一口に言っても、「恋愛」という概念ほど理解し難く奥深いものはなく、王道のラブストーリーと銘打たれた作品であっても中身を覗くまでは信用ならないのである。其の実恋愛についての価値観は作者の解釈、もとい個人の見解による部分が多い。それに加え、インターネットの発達に伴い執筆活動の敷居が下がった昨今では膨大な数の作品が世に出回っており、その有象無象の中から己の価値観と近い一冊を見つけることは困難を極める。作者の数だけ解釈の仕方があるように、読者もまた当人の求める珠玉の一冊を探しているのだ。

恋愛観が飽和した現代で、私がこの一冊と出会えたのはまさに奇跡と呼ぶに相応しい。桜木紫乃著作の「ホテルローヤル」と題されたこの作品は、私が望む理想の作品像とまさにどんぴしゃりであった。ラブホテルという非日常的で些か過激な場所を物語の軸にしながらも、登場する人物たちは誰も彼も平凡で、特筆すべき点など無いように思える。しかしそのギャップこそが「ホテルローヤル」の最大の魅力であり、私が読書感想文の題材として選んだ理由でもあるのだ。

本書は、とあるラブホテルを舞台にした七つの短篇で構成されている。ホテルの経営者と、その家族、従業員、出入りの業者、そして利用者の男女たち。まずは本書の一ページを飾る「シャッターチャンス」という章について言及していこうと思う。この章は、既に廃墟となったラブホテルで男女がヌード写真を撮るという内容になっている。私も思う所は多々あるのだが、以前本作を読んだ友人が言った、

「この彼氏はそんなにカメラが好きなの？」
という一言が、私の見解を更に深めることとなった。恋人、もとい美幸の視点で話が進められるため彼氏である貴史の姿は美幸の主観混じりでしか語られないが、それでも彼の独善性はひしひしと伝わってくる。そもそも美幸は自分がヌード写真の被写体として撮られることに乗り気ではないのだが、貴史の強引な態度に流されて渋谷廃墟へ赴くことになる。貴史はこのヌード写真を雑誌へ応募して紙面を自分の写真で飾りたいと意気込むが、果たしてそれは僅かにでも美幸を慮る気持ちがあつてのことだろうか。見ず知らずの他人の目に触れる恋人の裸体を、少しでも懸念に思ったことはないのだろうか。実はこの貴史、学生時代はアイ

スホッケー選手として名を馳せており、二十八歳の頃靱帯損傷のため引退しているのだ。それを踏まえた上で先程の友人の言葉を思い返せば、きっと貴史はカメラが好きなのは、行き場を失った自己顕示欲や学生時代の捨て切れない虚栄心を満たしたいだけなのだ。埃にまみれたベッドに横たわる美幸の裸体の素人臭さも、それを喜ぶ貴史の姿も、かつて栄えただろうラブホテルの廃墟も、滑稽と思わずにはいられないのだ。

私の蔵書の内に、村上春樹著作である「ノルウェイの森」があるのだが、本書はそれと似通った雰囲気を感じる。流されるままに生きていく人々の気怠さ、手に入らない物を強請って苦しむ欲深な人間の愚かしさ、そして物語に一貫して厳然と横たわる退廃感。泥臭い群像劇を描いた作品という点では、この二作は共通していると言える。初めの方で恋愛観について滔々と述べたが、美しさの欠片も無く、おとぎ話のような幸せな結末が存在するわけでもなく、人々がもがき苦しみ疲弊し、疑心暗鬼になり、しかし他者を愛することを止められない姿こそが至高だと私は考える。

本書の最後の章である「ギフト」は、このラブホテルが営業を始めるに至った経緯が刻明に描かれている。手に職のつかない男と、団子屋の看板娘が無謀にもホテルを経営しようと試行錯誤する話である。先の見えない将来計画に、夢を語る若い男女。あまりにも哀れな二人の姿はいつそ清々しい程に無垢であるが、これから先の未来を知る読者にとってはいじらしさの他に形容する言葉が見当たらない。自分たちの将来が輝くものだと思わず疑わぬ二人の虚しい顛末は、あまりに悲しい結果ではあるが、この無慈悲で残酷な結末こそ、この作品の末尾を飾るに相応しいと私はつくづく思うのだ。

優秀賞

「星の王子さま」を読んで

機械工学科 1年 小暮 芳渚

私は、サンテグジュペリ著「星の王子さま」を読みました。この本を読むことに決めたのは、以前、友達に薦められたことがあったからです。その友達は、この本がずっと好きだと言っていました。私が普段読む本は推理小説やシリーズものがほとんどで、私の中で「好きな本」というと、単に「面白いと思った本」でした。だから、私も長い間心の支えになるような大切な一冊を見つけられたらと思い、まずはこの本から読んでみることにしました。

「星の王子さま」を手にとったとき、この題名と、表紙にある素朴なイラストから判断して、平和で小さな星と、そこを王子さまを描いた話だろうと思いました。しかし、実際に読んでみると、話の舞台となっているのは王子さまの星ではなく、その他の小惑星や地球でした。それに、この本に出てくる、地球以外の星は予想を超えた小ささでした。小さな星には一人ずつしか人間が住んでおらず、その人達は毎日同じような生活を送っていました。また、この話の主人公は王子さまではなく、地球に住むパイロットの「ぼく」でした。「ぼく」は、飛行機が故障したために、サハラ砂漠で一人、残りわずかな飲み水だけでエンジンを修理していました。そこに、幸せを探すために自分の星を出て、他の星を旅している王子さまがやってきます。二人が出会い、一緒に話している中で、大切なものとは何なのかに徐々に気づいていくというのが、この話の内容でした。

私は、王子さまが地球に来たときの、キツネとの会話が心に残りました。キツネは、王子さまに自分を飼い慣らしてくれと頼みました。そうしてくれれば、自分にとって、王子さまは、十万人のよく似た少年たちのうちの一人から、世界でたった一人の人になる。王子さまの髪と同じ、金色をした小麦をみると王子さまを思い出すようになる。キツネはそう言っていました。これを読んで、私も大切なものについて少し分かった気がしました。確かに、私が大切に思っている友人なども、初めて会った時からずっと大切だったわけではなく、初めはクラスメイトの内の一人などという認識だったのが、何か理由があって、特別な人になったのだと思います。それに、自分が大事にしているものと同じものがたくさんあったとしても、私にとって大切なのは自分が大事にしてきた一つのものであって、他のものは特別に感じないかもしれません。また、大切なものが一

つあれば、それを連想させるたくさんのものを大切に想えるようになるとも思いました。キツネは、「肝心なことは目では見えない」とも言っていました。人は、心で感じるができるから、同じ見た目のものがたくさんあってもその中の一つを大切にしたり、大切にしてきたものを思い出させるというだけで、全く違うものでも大切に思えてきたりするのだと思います。

この話の中では、大人が奇妙な人たちとして描かれているのも印象的でした。この本に出てくる人は、王子さま以外全員が大人です。王子さまが三番目に訪れた星の人は、酒を飲んでしまうという恥ずかしいことを忘れるために酒を飲み、五番目に訪れた一日が一分間の星には、一分ごとに街灯を点けたり消したりする点灯夫がいました。この本の中で、大人は、一つのものにとらわれて代わり映えのしない毎日をおくっているものでした。そんな大人を見た王子さまは、不思議に思いつつもその姿を参考にして大切なものとは何かを導き出します。王子さまに、大切なものについて直接ヒントをあげたのはキツネで、「ぼく」にヒントを与えたのは、子供である王子さまの言葉でした。私は、分からないことがあれば、自分よりも長く生きていて多くのことを知っているであろう大人に教えてもらうのが自然だと思っていたので、この話を読んで少し驚きました。しかし、自分の生活に慣れてしまっている大人には気づくのが難しいことが、たくさんあるのだろうとも思われました。私が大人になったとき、多少のことでは疑問を抱かなくなり、それでも、自分は子供よりも、多くのことを知っていて正しいことを言えると思うようになっていたらと考えると悲しくなりました。それと同時に、もうすでに、自分より小さい子に対してそのように思っているかもしれないと思いました。

この本は、読んでいて考えさせられることがとても多く、一度読んだだけでは理解しきれていないと感じました。何度読んでも新たな発見があると思うし、読むときの気分によって感じるものが大きく変わるので、また読み返したくなると思います。

奇跡を信じた決断

電子制御工学科 1年 柳田 那由他

僕は、東野圭吾さんの作品の「人魚の眠る家」を読みました。この本と出会ったきっかけは本屋で父に薦められたことです。僕は本を読むことはそこまで好きではありませんが、著者が数々の作品で賞を受賞されていて有名な人なことは知っていて、知っている人がかいた本なら読んでみるかと思い、この本を読むことにしました。

中心人物の六歳の娘・瑞穂がある日プールへ遊びに行ったとき、排水溝から指が抜けなくなって溺れてしまいます。病院に搬送されましたが、長い間呼吸をしなかった影響で、意識が戻ることはありませんでした。医師は判断するために父・播磨和昌と、母・薫子に臓器提供の意思確認をし、二人は一度は同意しようとなりました。しかし、脳死テストを行う直前に瑞穂の手が動いたと感じ、娘はまだ生きているから提供しないと断りました。薫子は諦めずに瑞穂の回復を信じるという道を選びました。世間から見れば、彼女は「死んでいる」と変わらない。しかし、薫子たちは心臓は動いているし、きちんと生きていると考えています。この部分が「人魚の眠る家」の重要なテーマだと考えられます。

この作品は読者にどう考えるか迫ってきている感じがします。

植物状態は変わらないので、筋肉が衰えないようにマッサージを定期的に行いました。様々な見方はありますがこれを医療行為、リハビリと呼ぶのか、それとも親の自己満足と呼ぶのか難しいところでした。

作品で印象に残っているところが二つあります。一つ目は、母親としては娘は何も問題なく生きているのだと思っているところですが、周囲の目は全く異なり、死んでいる人間を無理やり生かし続けているという考えになるわけです。そして、ショックで興奮により母親が娘に刃物を突きつけるのです。そして、なんと自ら警察を呼びます。警察が着いてから母親が、「脳死している子供に包丁を突き刺したなら私は罪に問われるでしょうか。」「瑞穂はとうの昔に死んでいたというのなら私は罪に問われない。」「人は二度死なない。」

と言いました。娘が死んでいるなど信じたくないのがとても伝わったことです。

二つ目は、母親が、

「この世には狂ってでも守らなきゃいけないものがある。そして子供のために狂えるのは母親だけなの。」というセリフです。母親の愛が深く伝わり感動しました。

この作品は、自分に子供ができてからまた読みたいと思いました。親という同じ立場で見たら、新しく発見することがあるだろうと思ったからです。

脳死は人の死かというのはよく議論されています。他人から見れば死んでいると思ってしまうが、身内だったら死を受け入れることはできないだろうと思います。ましてや眠っているだけに見えるほどなら尚更です。

僕は先日母を亡くしました。僕にはいつも怒っている怖い母でした。そんな強いイメージのある母が死んでしまうなんて受け入れがたかったです。最期を見たときはやはり眠っているようにしか見えませんでしたし、きっと目を覚ますだろうとも思っていました。葬式が終わった今でさえ、母と入院中なかなか会えなかったからまだ入院中なんだろうと思いたくなります。

大切な人を失ったことは同じだから、とても共感しました。薫子も同じ死を受け入れるためらいや悲しさ、寂しさを味わっていたんだろうと身に染みんでいます。

僕が瑞穂の親だったら、例え自己満足でも薫子のように振る舞ってしまうのかもしれないです。

この作品を読んで僕は、ここまで育ててくれた家族に感謝し、今から命を大切にしていきたいと思いました。

優秀賞

強い心

電子制御工学科 1年 山田 菜

私は弱い人間だ。もっともっと強くならなければならぬ。「はなちゃんのみそ汁」という本を初めて読んだときに私はこう思いました。

「はなちゃんのみそ汁」は、二〇一四年にテレビドラマ化され、それを見た私は懸命にがんの治療をする安武さんの姿に心を動かされました。しかし、テレビドラマは原作をモチーフに作られたフィクションだったため、「原作も読んでみたい。」と思いました。これが私と「はなちゃんのみそ汁」が出会うきっかけとなりました。

この本は、乳がんを患った安武千恵さんと闘病中に出産したはなさん、夫の信吾さんとの生活を綴った本です。信吾さんは、たった五歳で母親と別れてしまったはなさんのために、千恵さんの生きた証や千恵さんの思いを残そうと思い、執筆をしたそうです。二十代で乳がん、結婚、出産をへて肺がんに移転という過酷な運命の中、千恵さんが二〇〇六年一二月に書き始めたブログ「早寝早起き玄米生活～がんとムスメと、時々、旦那～」の中の言葉と信吾さんの言葉で、千恵さんと信吾さんの出会いからはなさんと二人家族になった後の話までが描かれています。

「はなちゃんのみそ汁」を読んで心に残ったことは、病気を患っていても強く生きている安武さん家族の姿です。いつでも笑顔を絶やさず明るく過ごしている安武家はとても素敵なお家族だと思いました。

私はとても小さなことでくじけてしまい、考え方がどうしても悲観的になってしまうことがあります。そのため、どんなときでもプラス思考の安武さん家族には憧れを抱いています。

千恵さんは、乳がんを患った時に手術をして抗がん剤治療を行ったそうです。心身ともにとても辛く、大変な治療だったと思います。しかし、そのような辛いことを乗り越えた後でも、千恵さんは「強くなりたい。もっと、もっと強く。」とブログに綴っていました。また、術後の後遺症でリンパ浮腫が発症して左手が不自由になってしまった時も、「できないことを数えるのではなく、できることからこつこつと。」と、前向きな言葉を書いていました、それに比べて、些細なことで弱気になってしまう私は、本当に情けないなと反省させられました。もし私が同じ状況におかれたら、乗り越えることはできないだろうと思います。

ほかにも、安武さん家族の絆や周囲の人との繋がり

も強く印象に残りました。はなさんは五歳の時に母親を亡くしてしまいましたが、そのあとも「寂しい」とは決して言わなかったそうです。信吾さんは、そのことについて、「彼女なりのほくに対する精一杯の配慮だったのかもしれない。」と書いています。そんなに過酷な状況におかれても、家族に対する思いやりを欠かさないはなさんは、きっと小さなころから周りの人に大切にされてきたのだと思います。また、安武さん家族の周りには支えとなってくれるたくさんの方々がいました。いざという時に安心して頼れる人がいるということはとても心強いことだと思います。

「なんとかなる。」千恵さんはこの言葉をブログの「好きな言葉」の欄に書いていました。千恵さんは「人生七割でよし」と、おおらかに構えるように心がけていたそうです。ストレスは免疫力を低下させます。しかし、千恵さんは無理をしない、ポジティブな考え方を得たことで、免疫力を低下させないようにすることができました。私は完璧を望んでしまう傾向があります。しかし、完璧を望めば無理をするしかないのです。私は、無理をしてでも完璧を目指したいですが、無理をしすぎると健康に支障が出てしまうこともあるかもしれません。そのため、私も肩に力を入れすぎずに、そして、ポジティブに物事を考えられるようになりたいです。そうすることで、自然と心も強くなるのではないかと思います。

「西の魔女が死んだ」を読んで

物質工学科 1年 今本 阿子

「アイ・ノウ」と。私はこの言葉に涙しました。

私がこの本に出会ったのは本好きな兄の影響でした。家にたくさんある本の中で「西の魔女が死んだ」というタイトルは一際目立っていました。初めは興味本位で手に取った本でしたが、今では私の一番好きな本です。まだ十六年間しか生きていませんが自分の生き方を教えてくれた本なのです。

この本は学校に行けなくなったまいが西の魔女と呼ばれるおばあちゃんと過ごした一ヶ月を回想するお話です。主人公まいは中学に入って外国人のクォーターであるため浮いてしまい学校に行けなくなりました。ママは強くは言わなかったものの、パパとの電話で「扱いにくい子」、「生きにくいタイプの子」と言っているのを聞いてしまい心はより閉ざされてしまいます。結局まいは大好きなおばあちゃんの家で暮らすことになりました。自然に囲まれたおばあちゃんの家で一緒にサンドイッチや野いちごジャムを作ったりしました。そして「意思の力」、「自分で決める力」、「自分で決めたことをやり遂げる力」を鍛える「魔女修行」を教わります。しかし修行といっても早寝早起きをしたり時間割を決めるなどでした。それから隣のおじさんとトラブルがあったりパパが来たりといそがしいようなんびりなような時が流れていきます。まいは自分のすべてを受け入れてくれるおばあちゃんが大好きでした。「おばあちゃん、大好き」と言うといつも知っていますよという意味で「アイ・ノウ」と答えてくれました。それからまいはパパの家に引っ越し、新しい学校に行くようになりました。しかし二年後魔女が死んだと聞いておばあちゃんの家に行きました。突然、世界の色と音が消えたように思えました。そこでまいは汚れたガラスに指でなぞった跡のようなものを見つけました。ニシノマジョカラヒガシノマジョヘオバアチャンノタマシイ、ダッシュツ、ダイセイコウ2人でかわした約束、死ぬのがこわかったまいに死んだら教えると言ってくれたおばあちゃん、覚えていたのです。その瞬間あふれんばかりの愛をまいは身体じゅうで実感しました。まいは目を閉じ、涙を流しながら叫びました。「おばあちゃん、大好き」その時確かに、心の底から聞きたいと願うその声を、まいは聞いたのでした。「アイ・ノウ」と。

私は自分がこの本に惹かれる理由を二つ考えました。一つ目は西の魔女ことまいのおばあちゃんの言葉

についてです。印象に残っているのは飼っていた鶏が何者かに殺されてしまい、二人で死について話す場面です。まいのパパは死んだら最後で自分という者がなくなるのだと昔言っていました。しかしおばあちゃんは「魂と身体が合体してまいができています」と言いました。つまり死というのは魂が身体から離れて自由になるのだと、そしてまた次の身体を探しさまようのだという意味でした。まいの死や将来に対する不安が消えていく様に感じました。他にもまいの質問にはすべては答えず、自分で考えさせられるように答えるおばあちゃんに私自身も考えさせられました。それでもだめな事はきちんと言うおばあちゃんからまいへの愛が感じられました。

二つ目はまいと自分で重なる点があることについてです。私は小さいころ外国に住んでいて小学校高学年で日本に引っ越したものの学校には行けませんでした。女の子のグループや周りにあわせるという事がむずかしかったのです。色々あり少しずつ学校に行けるようになりましたが今でも集団行動は苦手です。まいとおばあちゃんの話の中で、学校の事がありましたが、とても共感できる内容でした。そこでおばあちゃんは自分で考えて決断し芯を持って生きるべきだと言っていました。幸せなんて人によって違うのだから自分で探すべきだとも言っていました。それが私の心を大きく変えてくれた言葉です。まいに向けて言っていたはずの言葉がまるで自分が言われたように心に残っています。

他にもこの本のおもしろい所はたくさんあります。読む人にとって受け取り方は違うと思います。でも私はまいと自分が似ている事からおばあちゃんの言葉が心に刺さりました。まいはおばあちゃんの死を乗り越え、「魔女修行」をしながら成長していきました。私も自分で考え決断し芯を持って生きていきたいです。西の魔女の様にはむずかしいかもしれないけどまいの様に少しずつでも心を成長させ続けたいです。

優秀賞

「山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた」 を読んで 物質工学科 1年 山内 花音

私はこの本を読み、深く感動すると共に自分の今までの考えが大きく変わった。

作品の中でいちばん印象に残った場面は、山中さんが研修医だった頃に厳しい指導医の先生にきちんと名前を呼んでもらえず、「ジャマナカ」と呼ばれていたというところだ。今でこそ世界中に名が知れわたり、世界の医学に貢献されている山中さんですら、過去に大きな屈辱を味わっているのだ。だが山中さんは、「ここで壁にぶつかったことが、研究者という新しい道につながったのです。」と、自分の置かれていた状況をポジティブに捉え決して他人のことを悪く言わないところが印象に残った。

私は作品の中の山中さんへのインタビューの中の「やっぱり飛ぶためにはかがまなあかんねんや。」という部分に感動した。山中さんはうつ病になったり、病気以外でもなかなか結果が出せず苦しい時期があったりと、挫折したこともあると言う。そんな時に読んでいた本の中の言葉によって、高く飛ぶためには思いっきり低くかがむ必要があると気づかされたそう。私は何かに挑戦して結果が出ないときにすぐに挫折して諦めてしまった経験があるため、この言葉に深く共感し、感動した。だから、これから挫折することがあってもこの言葉を思い出して、今自分が置かれている状況は今後結果を出すための助走なのだと思います。がんばりたい。

この作品では山中さんが父に言われて医師を志したがうまくいかず、路線を変更して研究者となり、さらに自分の学びたいことを見つけると、そのことについて本格的に学ぶための留学先を探して手当たり次第に応募していたことや、研究をしていく中であきらめかけていたES細胞についての研究を、もう少しテーマを変えずに続ければ医学の役に立てる可能性が高いと思いき、あきらめずに続けていたことなどから、なにごとにも挑戦することの大切さを教えてくれている。私は「やらない後悔よりもやる後悔。」という言葉聞いたことがあるが、その通りだと思う。成功するかどうかは分からなくても、挑戦してみることに意味があるのだと、この作品の中に書いてある山中さん自身の経験を通して伝えられた。

私は今までさまざまな事に対して、とにかく結果をだすことにこだわってきたため、冒険心を持ったり挑

戦したりすることが少なかったように感じる。だが前述の通り、この作品を読んで、確実に結果が出るかは分からなくても挑戦してみることに意味があり、失敗したとしてもその経験は無駄にならないという考えを持つようになった。また、山中さんは、日本に住むようになった今でも変わらず英語の勉強をしていて、移動時間にも勉強や仕事をするために仕事場へは電車を通うそう。私を含め、平凡な日々を送れている人たちは現状に満足して、今まで行ってきた努力も、目標を達成すればやめてしまうことが多い。だが山中さんは、常に英語を使う環境にない今でも、向上心を持って英語の勉強を続けている。だから私も目標を達成したから努力をやめてしまうのではなく、向上心を持っていたいと考えるようになった。

私はこの作品を読んで、これから人の心に寄り添って生きたいと思った。山中さんは研究者としての責任や使命感について、重圧や逃げ出したくなる時もあると言う。だが、患者さんやその家族の方からの温かい声かけを聞き、逆にこの仕事をさせてもらえることを幸せだと感じるそう。このような関わり合いは、自分のしている事に誇りを持ち、周りの人たち一人一人の心に寄り添わないとできないことだと思う。だからこれからの人生で人間関係を築いていくにあたって人の心に寄り添っていきたい。また、これから切り開いていく新しい環境に対して消極的にならないようにしたい。未来に希望を持っていても必ずその通りになるとは限らないが、山中さんが自分のやりたいと思ったことに対して次々と挑戦していったように、失敗を恐れずに後悔しない生き方をしたい。

佳作

有川浩「キケン」を読んで

機械工学科 1年 清水 優作

僕は、有川浩「キケン」を読んで、好きなものに対する情熱と、全力で挑む姿勢を感じました。この作品には、そういった、ものづくりだけでなく何をするにおいても大切な気持ちが描かれていると思います。

舞台はとある都市部にある成南電気工科大学。物語の中心となるのは、成南大の数ある部活の一つ、「機械制御研究部」略称「機研（キケン）」とそのメンバーたち。その中でも、キケン＝危険として恐れられた黄金時代のエピソードが計六話、収録されています。例えば、学園祭でラーメン屋を出し、売り上げ百万円以上を目指すストーリー「三倍にしろ!」では、学園祭六日間で前年の約三倍、約百万円の売り上げを目指し、スープのダシから作る本格ラーメンを売り出すという話です。

その他にも、工学科らしい話もあり、第五話、「勝たん!でも負けん!」では、ロボット相撲大会に出場するために、試行錯誤を重ねながらロボット製作を行う様子が描かれています。

その中で、特に印象に残った話は、「三倍にしろ!」でした。六日間で百万以上の売り上げを出すという無理難題に対し、全力でできることをして、仲間と協力して壁に向かっていく姿に、共感すると同時に、とても興奮しました。また、「本気で遊ぶ」というフレーズも、とても印象に残りました。「遊び」と聞くと、リラックスして気を抜いて、みんなで楽しむものにとりがちですが、途中で飽きてなあなあになったり、中途半端に手を抜いてしまいがちです。この言葉には、そんな遊びにすらも一切手を抜かない、文字通り本気で遊んで、本気で楽しもうとする姿勢や思いを感じました。

こういった全力で取り組み、全力で楽しむ姿勢というのは、なにも遊びに限らず、あらゆる場面で重要になってくる姿勢ではないでしょうか。しかし、何かに全力で向かっていくということは、当たり前なのに、とても難しいことなのです。実際僕も、ある一つのことに挑む時に、全力で取り組むことができず、その結果中途半端な状態になってしまい、後悔してしまうことがあります。そんな時、いつも考えてしまっているのは、失敗したらどうしよう、真剣になるのが少し恥ずかしいなどの、負の感情です。確かに、失敗することは怖いですが、それを人に見られるのは、もっと怖いです。しかし、いちいちそんなネガティブな感情に支配さ

れていては、中途半端な結果になるのも当たり前です。ましてや楽しむことなんて不可能です。そういったネガティブな感情たちにとらわれないために、まずは挑戦をすべきだと僕は思います。でもそこから、なぜそうなったかを分析し、次どうやったら同じ失敗をしないですむかを繰り返しシミュレーションし、失敗の原因をつぶしていくことで、だんだんと失敗が成功にかわっていくのではないのでしょうか。僕は、小学校から中学校まで、野球をしていました。最初、僕は全く打てず、守備もいま一つで、試合でも失敗ばかりでした。しかし、失敗の原因、それについての反省をノートに書き出し、その内容を常に意識しながら、練習を行いました。コーチにアドバイスをもらったり、自主練習をしたりするなど、自分でできる範囲のことはなんでもしました。その結果、試合でホームランを打てるようになったり、中学校では県総体出場のメンバーに選ばれたりするなど、結果がついてきてくれるようになり、自信につながりました。

新しいことに挑戦したとき、はじめはうまくいかず、失敗ばかりでくじけそうになります。高専での生活もそうです。勉強も分らないことだらけだし、寮も厳しく、失敗ばかりです。しかし、この状況に負けず、失敗を成功に変えていくためにも、恐れず、何事にも全力で取り組み、全力で遊んでいきたいと思います。

佳作

『戦場のコックたち』を読んで

機械工学科 1年 森 拓真

私が、この本を読もうと思った理由は、二つある。一つ目の理由は、過去にこの本を読む機会があったが、そのときはすべて読み切ることができなかったからで、二つ目の理由は、この本はとても読みごたえがあり、続きがとても気になっていたからである。

第二次世界大戦中のヨーロッパが舞台で、料理人だった祖母の影響で、コック兵となった十九歳の青年ティムが、かけがえのない仲間と共に過ごす、戦いと調理と度々戦場や基地で起こる事件の謎解きの日々を描いた戦場ミステリー小説である。

この話の一番のポイントは、主人公の描かれ方にあると思った。主人公のティムは、英雄だとかとても勇敢な人物といった、いわゆる「兵士になるべき存在」ではなく、食べることが好きで、周りの雰囲気にならされてしまうような、「どこにでもいそうな普通のアメリカの青年」として描かれているのだ。そんな主人公の目線で話が語られているので、感情移入が容易にできた。また、作中では主人公の成長も描かれており、物語序盤の主人公が「普通のアメリカの青年」であったからこそ、物語終盤の主人公の成長ぶりを感ずることができた。

作中で印象に残ったところは三つあり、一つ目はこの作品の醍醐味ともいえる、謎解きの場面である。戦場や基地で起こる事件や可笑しい出来事を、頼れる親友と解き明かしていくところにわくわくし、謎が解き明かされるたびに「そういうことだったのか」と驚嘆させられた。さらに、それぞれの出来事は、解き明かされてそこで終わりという訳ではなく、全てが物語の結末へと結びついていて、その結果が思いもしなかったものだったので、先の読めない展開にもしっかりと伏線が張られていたことにとても驚いた。

二つ目は、戦場のリアルさである。戦場となった町や村の惨状や、負傷兵などの様子が細かな描写で描かれており、光景や様子がリアルに頭の中に浮かんできて、戦争がいかに悲惨なものがよくわかる。また、戦場は常に、些細なことが生死に関わってくるという状況の下にあり、そんな中で、仲間が命を落としてしまうことも少なくない。作中では、仲間の死についても描かれており、特に、主人公のパートナーともいえる親友が亡くなってしまったときは、読んできてとても心苦しくなった。明日は我が身という極限の状況の中で、主人

公が抱いた「“かも”や“もし”は意味がない」という気持ちにはとても共感した。

三つ目は、マイノリティ差別（作中では、黒人に対する差別）に触れ、主人公が過去に犯した過ちと向き合う場面である。主人公が幼かったころ、黒人の居住区前の橋に、悪友と嘲笑を意味する印をチョークで書いたことを祖母に叱られ、印を消したのだが、消した後、祖母が主人公に言った「元通りになるものなんて無いのよ。」という言葉がとても印象に残ると共に、自分の心にも、何か刺さるものがあったように感じた。

私は、この本を読んで、改めて今の自分がどれだけ恵まれているかがわかった。家族に会えることや、満足な食事が摂れることなど、どれも当たり前のように思えて当たり前ではないものなので、日頃から感謝の気持ちを持つよう心がけたい。いつか亡くなってもできるだけ後悔しないように、一つ一つのことを噛みしめるようにして生きていきたい。また、差別に対しても、しっかり向き合っていこうと思った。差別に対して無関心だと、自分はしていないつもりかもしれないが、知らず知らずの内に、自分の態度が、発した言葉が、誰かを傷つけてしまっているかもしれないからだ。「こいつはなんだか気に入くない。」と思ったとしても、それを言葉や態度で表すことは良くないと思うが、周りの雰囲気に流されて、ついそういうような態度をとってしまうこともこれまでは多々あったので、改めて自分の行動を見直していきたいと思っている。

佳作

小坂流加「余命10年」を読んで

電気情報工学科 1年 櫃田 英治

私は、『余命10年』を読んで、ただただ「いい話だな」と思った。

この『余命10年』という本は、数万人に一人という不治の病に冒され、医師から余命は十年だと告げられた二十代の女性の話である。何をするにも志半ばで諦めなければならなくなり、自分の人生に対する諦めから、余命への恐怖は薄れ、淡々とした日々を過ごしていく。そして何となくはじめた趣味に情熱を注ぎ、絶対に恋はしないと決めていたが、同窓会での再会をきっかけに…。という、至ってシンプルで、どこにでもありそうな物語である。

しかし、そんなシンプルな物語であるからこそ、筆者の「ただ切ない」、「ただ悲しい」だけではない、一つ一つの切実な描写に心を奪われ、いつの間にか涙を流してしまうのだ。

この本は、不治の病に冒された女性、高林茉莉からの目線で描かれる。

まず注目してほしいのがストーリーの所々に、太字で茉莉の心の叫びが挿入されている。その内容として、不治の病への葛藤、余命、恋愛の喜び、友人、家族への不満、感謝などがあり、何の飾り気もないその言葉一つ一つが胸に刺さる。一番最初心の叫びで「あと10年しか生きられないと宣告されたのならば、あなたは次の瞬間、何をしますか。」という言葉があったので少し考えてみたが、ありきたりな事しか思い浮かばなかった。それは、そんな事が自分には起こらないと心の底で思っているからである。

話を戻すが、茉莉は余命宣告を受けてから死への恐怖をなるべく薄めようとした。そのためもっと生きていたいと感じてしまうようなものはなるべく排除しようとする。生きていても楽しくなければ、死んでもいいと思うはずだと、つまり、この時の茉莉は、「楽しく生きたら死ぬのが怖くなるから、なるべくつまらないように生きよう。」そう考えていたのだ。しかし、中学の同級生、藤崎沙苗の影響により、アニメ、同人などの趣味ができ没頭していき楽しい日々が続いていた。しかし、友人たちとの再会により、発病後ひねくれていた思考により、周りの「元気で何でもできる友人」を見て自分が「ただの病人」から「何もできない病人」なのだと感じ、さらに自分を支え続けてくれた姉の桔梗が結婚のため一緒に生活できなくなってしまう。そして、桔梗がい

ない穴のある食卓、日頃のストレス、他人との違いなどから今まで溜めていたものが一気に放たれ絶望してしまう。

中盤になると登場人物が増えていき、この物語で重要な役となる小学校の同級生の真部和人と同窓会で再会し、交流を持つようになる。

しかし、命に執着すれば死への恐怖が生まれてしまうため、絶対に恋をしないと決めていた。そのため和人と楽しい時間を過ごした後はいつもつらい時間が続いた。楽しかった分だけつらい時間が待っていた。死にたくないと思わないために一番最初に捨てた恋愛感情が戻りかけていた。残りは四年だった。

と、話が進んでいくのだが、ここから、というより、始めから、この本を読むにあたって一点だけ知っておいて欲しい要点がある。それは、この本の高林茉莉とこの本の著者である小坂流加さんが同じ病気にかかり、そして、本の編集が終わった直後に刊行を待つことなく、二〇一七年二月に亡くなっていることだ。そのためこの本はフィクションであるが、ある種のノンフィクションとも言える。だからこの本は非常にメッセージ性が強く、茉莉の言葉にもリアリティがあり、胸に刺さるものがある。

茉莉の最後の心の叫びに、「死ぬ準備はできた。だからあとは精一杯生きてみるよ。」という言葉がある。この言葉を聞いて何を思うかは人それぞれだが、そこには心を揺さぶる「何か」がある。

ラストへ変わる前にこういう台詞がある。「—それはまだ、知る由もないしあわせの奇跡。わたしが知らない、この先のおはなし。」辛いラストへ続く最後の言葉で、泣きながらも少しニヤつきそうになる。私がこの本で一番好きな言葉だ。

佳作

伊坂幸太郎「陽気なギャングが地球を回す」 を読んで 電気情報工学科 1年 山中 桃羽

私が、伊坂幸太郎「陽気なギャングが地球を回す」を読もうと思ったきっかけは、この本の作者、伊坂幸太郎の描く世界観がすごく好きで、彼がかく作品を手当たり次第に読んでいた時にこの本に出逢いました。

この本のはじめに銀行強盗に何人が最適なのが書いてあり、そこを読んでこの本はきっと面白い本だろうと思いました。二人組では痲癩を起し、三人組ではバランスが良くなく、五人だと窮屈。というわけで銀行強盗は四人いると書かれていました。それも、この本に出てくる四人組の強盗はふつうの四人組ではないのがこの本のおもしろいところです。相手が嘘をついているかどうかを見抜く人間嘘発見機の成瀬。地下水が湧き出てくるように止まることなくぺらぺらと喋る演説の達人の響野。自然と動物を愛しているスリの天才の久遠。何秒経ったかをコンマ一秒単位でずっと自然に数えている正確な体内時計を持っている雪子。この四人は「人を傷つけない」をモットーとし、周到な計画のもと強盗を行う銀行強盗のプロなのです。いつもどおり、完全な計画のもと強盗をし、銀行から逃げていたその時、小道から飛び出してきた一台のRV車によって彼らの計画は崩れました。RV車に乗っていた奴らは偶然にも同じ日に彼らと別の銀行を襲った銀行強盗団で、四人が乗っていた逃走車と彼らが苦勞して奪ってきたお金も一緒に持ち去ってしまったのです。彼らとその奪われたお金を取り戻そうとするとところからこの本のおもしろく、ユニークなストーリーが始まるのです。

伊坂幸太郎のかく小説は複数の人物の目線からバラバラの物語を描いているように見えて実はすべて繋がっており、話を読みおえるころには頭の中でひとつの作品ができあがるようなかき方のものが多いと私は思っています。今回読んだ、「陽気なギャングが地球を回す」も同じかき方で、最後にどんな作品になるのかとわくわくして考えながら読みすすめていました。

この作品の中で私の好きなセリフは雪子の「変わった動物は保護されるのに奇妙な人は排除されるのね」というセリフです。最初にこのセリフを読んだ時はとくに何も考えずに話の中のひとつのセリフていどにしか思っていませんでした。すこし読みすすめた時に、ふとこのセリフが頭にうかんできて、読み返したりもしました。変わった動物は他の動物と見た目が少し

ちがったり生態が少しちがうだけで動物であるのには変わりなく、数が少ないため絶滅してしまう可能性があるから保護されるのだと私は思います。人間だって同じだと私は思います。見ためが一人一人ちがいで、性格や思考も十人いれば十人それぞれみんなちがうだけなのだと。でも私たちは自分とちがう人を非難したり軽蔑したりします。それはおかしいのではないかと私は思います。自分とちがうところをその人の個性だと思えばいいのに自分とちがうから奇妙だ、変だ、と考えるのは大きな間違いだと私は思いました。自分も以前、自分とちがうところがある人を見た時、あの人は変だなんて思っていました。でも話をしてみたらふつうの人で、変でも何でもありませんでした。お互いが分かり合えないことでけんかにも繋がるんだろうなと思い、この本を読んであのセリフに出逢うことができ良かったなと思いました。「変わった動物は保護されるのに奇妙な人は排除される」というセリフの他にも、そのセリフの意味を深くよみとることで新たな発見につながったり新しい知識となるようなおもしろいセリフがたくさんありました。「陽気なギャングが地球を回す」はシリーズ化されており、続編はまだ読んでいませんが絶対におもしろいのだろうと思ひ、続きがとても気になっています。もしまた機会があれば読書感想文を書きたいと思っています。

佳作

『「また、必ず会おう」と誰もが言った。』を読んで

電気情報工学科 1年 山本 真由

自分の身の回りで行き起こっている出来事は、すべて行き当たりばったりの偶然ばかりだと思いますか。この本では、人の出会いの大切さ、それゆえに出会いは必然であるということに気づかせてくれます。

私がこの本を読むのは2回目になります。最初に私がこの本に出会ったのは中学生の頃でした。この本の作者である喜多川泰さんの作品が好きで、図書館でいろいろと借りて読んでみている時に会いました。喜多川さんの作品は、人間を軸にした温かい話が多いのですが、この作品は特に人間のつながりのようなものを感じられ、印象深いセリフも多く心に残る作品になりました。あれから幾らか過ぎて、また喜多川さんの本が読みたくなり、再びこの本を手に取りました。

このお話は、強がってついでにしまった嘘のせいで東京に行くも帰れなくなってしまった高校生の主人公が、自宅に帰る途中さまざまな人との出会いの中で成長していくという物語です。

私がこの物語を読んで特に印象に残った点は3つあります。一つ目は、主人公がお世話になるさまざまなところで、掃除や片付けをしたりしていることです。一日目に土産物屋のおばさんの家に泊めてもらうことになるのですが、主人公は座っているだけでした。そこでおばさんが「あなた、お客じゃなくて居候なんだから。」と掃除をするようにすすめます。そこで、主人公はこれから行くさきざきで掃除をするようになります。私はこのシーンを読んで、他人事ではないなと感じました。私は寮で生活していて、風呂掃除やゴミ出しなどを自分たちでするのですが、なんでこんなことをしないといけないのかという思いがあり真剣に取り組もうとは思いませんでした。しかし、それは今までやってくれる人がいて、そのことに甘えていただけなんだなと思いました。確かに寮ではお金を払ってはいますが、そこで過ごさせてもらっているのだから、自分のできる最低限のことはやるべきだなと思いました。

2つ目は、他人のめがねで世の中を見てはいけないということです。四日目に主人公が出会ったトラックの運転手の男性は主人公にめがねをかけさせます。わけもわからずめがねをかけ続けた結果気分が悪くなった主人公に運転手は、他人のめがねをかけて世の中を見ると世の中なんてつらいことを我慢するだけになると言い放ちます。度の合わない他人のめがねをかけ

ると気持ち悪くなってしまおうように他人のめがね(価値観)で生きているとつらくなってしまうというのが良く分かって、確かになと思いました。何が幸せかなんてことは人それぞれで、自分の人生なのだから自分のやりたいことをやれば良いと思いました。決して、有名な大学に入って、大きな会社に入ることだけが幸せの形ではないと感じました。作中、主人公は他人のめがねをかけていたままだったということが分かり、自分で決めて何をやってもいいということが新鮮だったとされていますが、私もこの考え方は新鮮でおもしろいなと思いました。

3つ目は、最後に出会った老人が別れ際に連絡先を教えなかったことです。主人公が最後に出会った老人は、戦争によって友を亡くしていました。そんな老人の話に感動した主人公は、また会えないかと尋ねますが、老人は、私たちが再び会おう必要がある時は天国にいる私の友人が必ず私たちを会わせてくれるだろうと言って連絡先を告げずどこかへ行ってしまいます。このエピソードが人との出会いは必然であるということ強く印象づけていると思います。このシーンはとてもカッコいいなと思いました。

人の人生を変える一番のものは人との出会いだと思います。人との接触が苦手な人も増えているように思いますが、人との出会いを大切に、積極的にでありたいなと思いました。

佳作

『君の臍臓をたべたい』を読んで

物質工学科 1年 亀居 紗楓

私は有名な作品を数々発表している、「住野よる」という作家が大好きです。私が好きな作品は、『君の臍臓をたべたい』、『よるのばけもの』、『また、同じ夢を見ていた』です。この三作品の中でも、一番感動し、最後のシーンが強く印象に残り、映画化された『君の臍臓をたべたい』という作品について書きます。

この物語は、臍臓の病気を患っている山内桜良という少女と、彼女が日々つけている共病文庫という日記帳を偶然見つけ彼女の病気を知ってしまったクラスメイトの男子が彼女の病気と戦いながら、限られた時間を精一杯生きる話です。

この物語の特徴はクラスメイトの男子の名前が覚えて出されていないところです。最初から、「クラスメイト君」、「君」などと呼ばれ、最後の最後で名前が分かります。この常識がないところも面白さのポイントだなと思いました。

桜良は病気のことを偶然知られてしまい焦りながらも普通を装いクラスメイトの男子と接します。とある日、彼女はクラスメイトの男子に、「私の残り少ない人生の手助けをさせてあげてもいいよ」と言い出します。クラスメイトの男子はとまどいますが、彼はしぶしぶ手伝う決断をします。彼女は日曜日のお昼十一時に駅前に集合という言葉を残し、嬉しそうに手を振って帰って行きました。彼女は死んでしまう前にあと何回この道を歩けるのだろうと考えると、複雑な気持ちになりました。クラスメイトの男子はどのような気持ちで日曜日に行くのだろうと思いました。

日曜日になりました。クラスメイトの男子は上手く彼女に声をかけられないまま彼女にひたすらついていきます。

しかし、彼女の発言と行動はこれから死ぬ人間がするとは思えないものばかりです。心の底から笑うこと、おいしそうにご飯を食べること、地味でマイナス思考のクラスメイトを怒ることです。

次の日、学校へ行くとクラスメイトの男子はクラスのみんなから冷たい目で見られ、桜良の親友である恭子からは、「なんであんたが桜良といるの」と責められました。誰がどこから見ても明るく、派手で人気者の桜良と、名前すらまともに覚えられず地味な

クラスメイトの男子はつり合っていないからです。

しかし、彼女は誰から何を言われてもクラスメイトの男子とつるむことをやめませんでした。少しずつ遊びに行く距離が長くなり二人で遠出をすることになる時もありました。

でも、ある問題ができてしまいました。臍臓の病気を患い、余命がある彼女にとって遠出ということは、思っていたよりも厳しいものでした。知らないうちに体に負担がかかってしまっていて、入院をすることになりました。入院中の彼女は食事すらまともに取れず弱っていきました。クラスメイトの男子は彼女を必死にはげまし、夜も家を抜けて会いに行きました。最初に会った時は仲が悪かった二人がお互いのことを大切に思う気持ちがとてもよく伝わるシーンでした。

そして、日が経つにつれて体が悪化する彼女に最後の一時退院をすることが許されました。二人は遊ぶ約束をしていました。クラスメイトの男子は、久びさに家に帰りおめかしをする彼女に言いたい言葉をメールに打ちながら待っていました。「君は凄い人だ。僕は君になりたかった。人を認められる人間に、人に認められる人間に…」いや、これ以上にびったりな言葉はないと今うった文字を消し、「君の臍臓を食べたい」と一言送って彼女を待ちました。

しかし、彼女は来ませんでした。彼女は来る途中に通りに刺されて死にました。この一文を読んだ瞬間、鳥はだがたちました。どんなに楽しみにして彼に会いに行こうとしたのだろうと考えたら涙が出ました。病気で死ぬはずだったのに一瞬で刺されて死にました。余命はあったけれど残り少ない時間を彼女なりに生きたはずでした。彼女と彼はどんなに悔しかったのだろうと思うと私も悔しい気持ちになりました。クラスメイトの男子が彼女に送った「君の臍臓を食べたい」は彼なりの精一杯の愛情表現だったと思います。君が死んでも君の臍臓の中で生き続けるという思いを込めて。

佳作

自分を変える

建築学科 1年 山中 雄太

自分を変えたい、何かを変えたいと思った時、実際に変えることのできる人はなかなかいない。私もその一人だと思う。さすがに心の底から自分が嫌だ、変わりたいとまで思うことはまだ無いが、日々の習慣ですらすぐに変えることのできない私には難しいだろう。

だが今回『夢をかなえるゾウ』を読み、少し自分を変えるということに対しての見方が変わった気がする。

この本は心の中で「成功したい、自分を変えたい。」と願う主人公のもとにゾウの姿をした神様ガネーシャが現れ、主人公を成功へ導くという内容のものだ。主人公はガネーシャに期待をする、だがガネーシャの教えは食事を腹八分におさえる、トイレ掃除をするなどといったものばかりであった。

この本から私は二つのことを学んだ。

一つは習慣を変えなければ自分を変えることはできないということだ。本のあらすじに書いたようにガネーシャの言う成功するための教えは難しいことではなく、やろうと思えばすぐに行うことのできる教えがほとんどだ。

本文中靴をみがくという教えに対して反発する主人公にガネーシャの言った言葉がある。「秘訣を知りたい、ということは、ようするに楽したいわけやん?」「それは楽しんで人生変えたり、楽しんで成功したいっちゃう甘えの裏返しやん。」確かに私もこういうことをやりたい、こんな自分になりたいと思ったときに、大抵はうまくいっていないような気がする。このことをガネーシャの言葉から考えると私は楽をしていたのだと思う。目指す理想像に近づこうとして一気に自分を変えていたのだ。だがこの時変わっているのは外見部分だけで肝心の中身は変わっていないのである。それでは当然長続きすることはなくまた元の状態に戻ってしまう。そのため中身を変えるために必要なことの一つには普段の自分、つまり習慣を変えることがあると思った。

もう一つは何かをやらないことには本心から自分がやりたいことを見つけられないということだ。成功した人たちはたいてい、「やりたいことをやりなさい。」そして「やりたいことを見つけ、ひたむきに頑張ることが成功するための方法だ。」と言うようだ。しかしやりたいことと言われて、これをやりたいとすぐに見つけるということとはなかなか難しい。ガネーシャは「やりたい

ことを見つけるために一番やったらあかん方法、それはな考えることや。」と言っている。また幼稚園くらいの時には一つずつ「これやりたいかな」などといったことは考えずに「これ楽しいかな」「これはつままない」と判断していたように本当にやりたいことを見つけると「ああ、これこれ」と分かるというようにも書かれている。ここから分かったことは、いろいろなことを体感してみないことには自分が本当にやりたいことを見つけるのは難しいということだ。自分の経験でも、頭の中でああでもない、こうでもないと考えてなかなか分からなくても、実際に行動に移してみると、意外とポンポンと答えが出たりということがある。頭の中だけで終わらせるのではなく、実際にやることで、自分の想像していなかった新しい発見があるのだ。

私は「夢をかなえるゾウ」を読んでみてこの二つのことを学んだ。そして自分を変えるには小さくてもいいから具体的な経験をするのが大切であると考えた。人間は変わろうと思ってもすぐに結果はついてこない。けれど結果が出ないとやる気にはなれず、長続きしない。何か小さくても具体的に自分が変わっていると感じることで経験があればいいのだ。その積み重ねが自信となってやがて大きな経験となっていく。そのくり返して自分は変わっていくことができるのだと思う。

何かを変えたいと思ったときにすぐに結果が出なくてもあせらなくてもいい。自分なりの方法で自分なりのペースでじっくりとやっていけばいいということを感じた。

2018年度 校内読書感想文コンクール概要と選評

図書館長 布施 圭司

2018年度読書感想文コンクールは、198編の応募があり、審査の結果、最優秀賞2編、優秀賞5編、佳作9編が選ばれた。

学生時代は、読書によって視野を広げたり創造性を高めたりする最後のチャンスと言える。書物との接し方はいろいろあるが、どれも本(ないし著者)との「対話」という要素を含んでおり、読書感想文は特にその性格が強い。今回選ばれた作品はどれも、興味深い「対話」が表現されており、感心したり、考えさせられた。最優秀賞と優秀賞について簡単に紹介する。

最優秀賞の1E岩崎 皓大さんの「有川浩「塩の街」を読んで」は、突然、塩によって埋め尽くされ、崩壊しかけた世界を描いた本から、先延ばしばかりせず、自分の言いたいことを伝えることの大事さを読みとっている。

最優秀賞の1C二司 佑菜さんの「ホテルローヤル」は、幸福を求めてもがく人々の姿、愚かしさ、虚しさ、を描いた本を紹介しつつ、挫折しながらも美や愛を求める点に「至高」があると主張している。

優秀賞の1M小暮 芳渚さんの「星の王子さま」を読んで」は、砂漠で飛行機を直すパイロットの前に、

幸せを探している「星の王子さま」が現れるという、世界的な名作から、人間(あるいは自分)にとって「大切なもの」とは何かについて、いろいろな示唆を読みとっている。

優秀賞の1D柳田 那由他さんの「奇跡を信じた決断」は、家族の脳死を扱った本をもとに、死・生命について、他人の死・生命、家族(子ども、親など)の死・生命など、関係性によって受け取り方が違うことを、指摘している。

優秀賞の1D山田 栞さんの「強い心」は、「はなちゃんのみそ汁」という本に描かれた、「死に至る病」に侵されつつ生きた家族の姿に、無理をし過ぎない柔軟な「強さ」を読みとっている。

優秀賞の1C今本 阿子さんの「西の魔女が死んだ」を読んで」は、学校に行けなくなった主人公とおばあちゃんの交流を描いた本から、人間はそれぞれ違いがあり考えも様々であり、自分で考え決断することの大事さを読みとっている。

優秀賞の1C山内 花音さんの「山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた」を読んで」は、iPS細胞を開発した研究者の人生や研究歴を記した本に、失敗を恐れず、向上心を持って挑戦する積極性、教え合い支え合う人間関係の大事さ、を読みとっている。



2018年度 校内読書感想文コンクール表彰作品【読書感想文の部】

| 賞 | 学科・学年・氏名 | | | 作品名 |
|------|----------|---|--------|---------------------------------|
| 最優秀賞 | E | 1 | 岩崎 皓大 | 有川浩「塩の街」を読んで |
| 〃 | C | 1 | 二司 佑菜 | ホテルローヤル |
| 優秀賞 | M | 1 | 小暮 芳渚 | 「星の王子さま」を読んで |
| 〃 | D | 1 | 柳田 那由他 | 奇跡を信じた決断 |
| 〃 | D | 1 | 山田 栞 | 強い心 |
| 〃 | C | 1 | 今本 阿子 | 「西の魔女が死んだ」を読んで |
| 〃 | C | 1 | 山内 花音 | 「山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた」を読んで |
| 佳作 | M | 1 | 清水 優作 | 有川浩「キケン」を読んで |
| 〃 | M | 1 | 森 拓真 | 『戦場のコックたち』を読んで |
| 〃 | E | 1 | 櫃田 英治 | 小坂流加「余命10年」を読んで |
| 〃 | E | 1 | 山中 桃羽 | 伊坂幸太郎「陽気なギャングが地球を回す」を読んで |
| 〃 | E | 1 | 山本 真由 | 『「また、必ず会おう」と誰もが言った。』を読んで |
| 〃 | C | 1 | 亀居 紗楓 | 『君の臍臓をたべたい』を読んで |
| 〃 | A | 1 | 加藤 美羽 | 思いやりをもつこと |
| 〃 | A | 1 | 高野 陽子 | 奥田英朗『空中ブランコ』を読んで |
| 〃 | A | 1 | 山中 雄太 | 自分を変える |

新着図書一覧(学科推薦図書)

| No. | 書名 | 著者等 | No. | 書名 | 著者等 |
|-----|--|------------------------------|-----|--|---|
| 1 | 建築設備パーフェクトマニュアル | 山田 浩幸 | 32 | クリスチャン分析化学 1. 基礎編 | Gary D. Christian, Purmendu K. Dasgupta, Kevin A. Schug |
| 2 | 最高に楽しい大江戸MAP: 江戸の名所・旧跡・面影を再発見! | 岡本 哲志 | 33 | クリスチャン分析化学 2. 機器分析編 | Gary D. Christian, Purmendu K. Dasgupta, Kevin A. Schug |
| 3 | 建築への旅建築からの旅 | 二川由夫(企画), 岡拓哉(校)編 | 34 | アクチュエータ入門 改訂2版 | 松井 信行 |
| 4 | 11の子どもの家: 象の保育園・幼稚園・こども園 | 象設計集団編 | 35 | 温度計測: 基礎と応用 | 計測自動制御学会温度計測部会編 |
| 5 | ビル・工場で役立つ省エネルギーの教科書 | 田沼 和夫 | 36 | モータ制御Theピギニング | 西田 麻美 |
| 6 | ちのかたち: 建築的思考のプロトタイプとその応用 = The form of knowledge: the prototype of architectural thinking and its application | 藤村 龍至 | 37 | 高トルク&高速応答センサレス・モータ制御技術 | 岩路 善尚, 足塚 恭 |
| 7 | 近代日本の洋風建築 開化篇 | 藤森 照信 | 38 | 光と電磁気: ファラデーとマクスウェルが考えたこと: 電場とは何か? 磁場とは何か? | 小山 慶太 |
| 8 | 近代日本の洋風建築 栄華篇 | 藤森 照信 | 39 | マンガでわかる電磁気学 | 遠藤 雅守 |
| 9 | 構造ディテール図集: 納まりのしくみを徹底解剖 | 山田 憲明, 多田 脩二 | 40 | FPGAの原理と構成 | 天野 英晴(編) |
| 10 | HEAT20設計ガイドブック+PLUS: G1-G2住宅の設計・評価: 全国版 | 2020年を見据えた住宅の 高断熱化技術開発委員会 | 41 | カラー図解Raspberry Piではじめる機械学習 | 金丸 隆志 |
| 11 | 施工がわかるイラスト建築生産入門 | 日本建設業連合会編 | 42 | 退屈なことはPythonにやらせよう: ノンプログラマーにもできる自動化処理プログラミング | AI Sweigart |
| 12 | 建築の日本展: その遺産子のもたらすもの = Japan in architecture: genealogies of its transformation. | Echelle-1 | 43 | 自動車解剖マニュアル: エンジン・ボディーから電装まで構造やしくみがわかる | 繁 浩太郎 |
| 13 | 階段空間の解体新書 | 田中 智之 | 44 | ラズベリー・パイでI/O | インターフェース編集部(編) |
| 14 | 室内温熱環境測定規準・同解説 | 日本建築学会(編集) | 45 | FPGAプログラミング大全: Xilinx編 | 小林 優 |
| 15 | Recent Work Fumihiko Maki: 横文彦+横総合計画事務所最近作から | 横 文彦(編著) | 46 | 回路図で学べるFPGA入門: 回路図は読める人のためのHDLガイド | すずたわり |
| 16 | 2次元作図 | 鳥谷部 真 | 47 | 計測工学入門 | 中村 邦雄(編著) |
| 17 | Excelで解く3次元建築構造解析 | 藤井 大地 | 48 | プログラミングコンテスト攻略のためのアルゴリズムとデータ構造 | 渡部 有隆 |
| 18 | Excelで解く構造力学 | 藤井 大地 | 49 | トコトコやさしいサーボ機構の本 | Net-P.E.Jp(編著) |
| 19 | 建築家のためのオフィスビル設備設計ノート | 設備設計ノート研究会 | 50 | ゼロからはじめるPID制御 | 熊谷 英樹 |
| 20 | 建築構造設計・解析入門 | 藤井 大地, 松本 慎也 | 51 | 原理からわかるモータ技術入門 | 石橋 文徳 |
| 21 | 直感で理解する構造力学の基本 | 山浦 晋弘 | 52 | メトロニクスtheピギニング: 「機械」と「電子電気」と「情報」の基礎レシビ | 西田 麻美 |
| 22 | 建築・設計・製図: 住吉の長屋・屋久島の家・東大阪の家に学ぶ | 松本 明, 横山 天心 | 53 | なるほど物性論 | 村上 雅人 |
| 23 | 直感で理解する構造設計の基本 | 山浦 晋弘 | 54 | 例題と演習で学ぶ電磁気学 | 柴田 尚志 |
| 24 | 理系総合のための生命科学 | 東京大学生命科学教科書編集委員会 | 55 | なるほどワカッ!電磁気学 | 大伴 洋祐 |
| 25 | はたらく細胞 1~5 | 清水 茜 | 56 | 電子回路と組込みプログラミング: モータ制御で学ぶ | ZMP |
| 26 | はたらく細菌 1,2 | 吉田 はるゆき(漫画) | 57 | 変圧器の原理と種類 | 荻野 昭三 |
| 27 | 研究室で役立つ有機化学反応の実験テクニック | J.Leonard, B.Lygo, G.Procter | 58 | 読むだけで力がつくオペアンプ基礎回路再入門 | 岡山 努 |
| 28 | 化学工学: 解説と演習 | 多田 豊(編) | 59 | 図解小形モータ入門 | 坪井 和男, 百目鬼 英雄 |
| 29 | はじめて学ぶ化学工学 | 草壁 克己, 外輪 健一郎 | 60 | 世界一わかりやすい電気・電子回路 | 藪 哲郎 |
| 30 | 不都合な真実 2 | アル・ゴア | 61 | 電気回路基礎ノート | 森 真作 |
| 31 | ハリス分析化学 上・下 | Daniel C. Harris | 62 | ネットワークカオス: 非線形ダイナミクス, 複雑系と情報ネットワーク | 中尾 裕也, 長谷川 幹雄, 合原 一幸 |

新着図書一覧(学科推薦図書)

| No. | 書名 | 著者等 |
|-----|--|-----------------------------|
| 63 | 基礎から学ぶ電気回路計算 | 永田 博義 |
| 64 | 確実に動作する電子回路設計：実験と波形写真が実証する | 上野 大平 |
| 65 | TOEIC L&Rテスト文法問題で1000問 | TEX加藤 |
| 66 | TOEIC L&Rテスト直前の技術 | ロバートヒルキ, 相澤 俊幸, ヒロ 前田 |
| 67 | はじめてのTOEIC L&Rテスト英文法完全生講義でいきなり600点突破 | 山根 和明 |
| 68 | 単語からスタートTOEIC L&R test総合対策入門 | 成重 寿, 松本 恵美子 |
| 69 | 世界一わかりやすいTOEICテストの授業 Part5&6文法 | 関 正生 |
| 70 | 公式TOEIC Listening & Reading問題集 4 | Educational Testing Service |
| 71 | 社会のしくみが手に取るようになる哲学入門 | 萱野 稔人 |
| 72 | 疲労と身体運動：スポーツでの勝利も健康の改善も疲労を乗り越えて得られる | 宮下 充正(編著) |
| 73 | 音楽と洗脳：美しき和音の正体 | 苦米地 英人 |
| 74 | 直感を裏切る数学：「思い込み」にだまされない数学的思考法 | 神永 正博 |
| 75 | 文科系のための遺伝子入門：よくわかる遺伝子テラシー | 土屋 廣幸 |
| 76 | イギリスにおけるマイリティの表象：「人種」多文化主義とメディア | 浜井 祐三子 |
| 77 | ホモ・デウス：テクノロジーとサピエンスの未来 上・下 | ユヴァル・ノア・ハラリ |
| 78 | アズナートレーニング：圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ | ポール・ウェイド |
| 79 | アズナートレーニング：永遠の強さを手に入れる最強の自重筋トレ：起死回生の関節編 | ポール・ウェイド |
| 80 | 筋力発揮の脳・神経科学：その基礎から臨床まで | 大柴 立志, 鈴木 三央, 柳原 大(編著) |
| 81 | 極上の孤独 | 下重 暁子 |
| 82 | のはまん解剖生理学 | 玉先生 |
| 83 | デジタルネイチャー：生態系を為す汎神化した計算機による他と寂 | 落合 陽一 |
| 84 | ソクラテスの弁明ほか | プラトン |
| 85 | キーワードで読み解く地方創生 | みずほ総合研究所 |
| 86 | 消費大陸アジア：巨大市場を読みとく | 川端 基夫 |
| 87 | QOLって何だろう：医療とケアの生命倫理 | 小林 亜津子 |
| 88 | Q&Aですらすらわかる体内時計健康法： 時間栄養学・時間運動学・時間睡眠学から解く健康 | 田原 優, 柴田 重信 |
| 89 | 新編物理学実験 | 美藤 正樹 |

| No. | 書名 | 著者等 |
|-----|---|------------------------------|
| 90 | イギリス現代史 | 長谷川 貴彦 |
| 91 | TOEIC L&Rテストレベル別問題集470点突破 | 安河内 哲也(編) |
| 92 | TOEIC L&Rテストレベル別問題集600点突破 | 安河内 哲也(編) |
| 93 | TOEIC L&Rテストレベル別問題集730点突破 | 安河内 哲也(編) |
| 94 | TOEIC L&Rテストレベル別問題集990点制覇 | 安河内 哲也(編) |
| 95 | 新TOEICテスト英文法をはじめからていねいに | 安河内 哲也 |
| 96 | 論理, 確率と統計, 整数の性質 | 岡部 恒治, 北島 茂樹(編) |
| 97 | 数と式, 関数, 図形の性質 4訂版 | 岡部 恒治, 北島 茂樹(編) |
| 98 | 体系数学4：中高一貫教育をサポートする | 岡部 恒治, 北島 茂樹(編) |
| 99 | 複素数平面と微積分の応用 | 永尾 汎, 岡部 恒治(編) |
| 100 | 松江市史 別編1 松江城 | 松江市史編集委員会(編) |
| 101 | ルソー エミール：自分のために生き、みんなのために生きる | 西 研 |
| 102 | 『競技場に立つ少年』は何処へ：ジョー・オグネル撮影『競技場に立つ少年』調査報告 | 吉岡 栄二郎 |
| 103 | 世界一わかりやすいTOEICテストの授業 Part1-4リスニング | 関 正生 |
| 104 | 世界一わかりやすいTOEICテストの授業 Part7読解 | 関 正生 |
| 105 | 作って覚えるSolidWorksの一番わかりやすい本 | 田中 正史 |
| 106 | 工業力学 | 本江 哲行, 久池 茂(編著) |
| 107 | 演習材料力学 | 辻野 良二, 岸本 直子 |
| 108 | 熱処理技術入門：金属熱処理技能士・受検テキスト | 日本熱処理技術協会, 日本金属熱処理工業会(編著) |
| 109 | 金属材料組織学 | 原 英一郎 |
| 110 | 材料系の状態図入門 | 坂 公恭 |
| 111 | 材料力学 1,2 | 森下 智博 |
| 112 | 強度検討のミスをなくすCAEのための材料力学 | 遠田 治正 |
| 113 | オープンCAEで学ぶ構造解析入門：DEXCS-WinXistrの活用 | 柴田 良一 |
| 114 | よくわかるSOLIDWORKS演習 | 日刊工業新聞社 |
| 115 | 複合材料入門 | D.ハル, T.W.クライン |
| 116 | カーボンナノチューブの精製・前処理と分散・可溶化技術 | 寺田 千春(企画)(編集) |

新着図書一覧(平成30年7月~12月)

| No. | 書名 | 著者等 |
|-----|--------------------------|--------------------|
| 1 | 水滸伝 1~5 | 井波 律子訳 |
| 2 | つくられた桂離宮神話 | 井上 章一 |
| 3 | 妖怪 = Yokai | 小松 和彦(監修) |
| 4 | 異人論：民俗社会の心性 | 小松 和彦(監修) |
| 5 | 日本人とキリスト教 | 井上 章一 |
| 6 | 京都ざらい | 井上 章一 |
| 7 | 建築と権力のダイナミズム | 御厨 貴, 井上 章一(編) |
| 8 | 水木しげる：鬼太郎、戦争、そして人生 | 水木 しげる, 梅原 猛, 呉 智英 |
| 9 | 妖怪学新考：妖怪からみる日本人の心 | 小松 和彦 |
| 10 | 妹島和世西沢立衛 | 妹島 和世, 西沢 立衛 |
| 11 | オリジン 上・下 | ダン・ブrawn |
| 12 | 文系でもわかる人工知能ビジネス | EYアドバイザー |
| 13 | 家庭教室 | 伊東 歌詞太郎 |
| 14 | 今すぐ使えて、会話がはずむ今日のタメ口英語 | kazuma |
| 15 | AI vs.教科書が読めない子どもたち | 新井 紀子 |
| 16 | 大人の語彙力ノート：誰からも「できる」と思われる | 齋藤 孝 |
| 17 | 論文・レポートの基本：この1冊できちんと書ける! | 石黒 圭 |
| 18 | 地球の歩き方 ドイツ | 地球の歩き方編集室(編集) |
| 19 | 地球の歩き方 ロシア | 地球の歩き方編集室(編集) |
| 20 | 地球の歩き方 ポルトガル | 地球の歩き方編集室(編集) |
| 21 | 送り火 | 高橋 弘希 |
| 22 | ファーストラヴ | 島本 理生 |
| 23 | リベラルアーツの学び：理系的思考のすすめ | 芳沢 光雄 |

| No. | 書名 | 著者等 |
|-----|---------------------------------------|-----------------|
| 24 | 未来の年表 2 | 河合 雅司 |
| 25 | ありえない! まどろいさいオルゴール店 | 瀧羽 麻子 |
| 26 | アリエナクナイ科学ノ教科書：空想設定を読み解く31講 | くられ |
| 27 | ゴースト(下町ロケット3) | 池井戸 潤 |
| 28 | ガウディ計画(下町ロケット2) | 池井戸 潤 |
| 29 | ピリオバル実践集：読書とコミュニケーション | 須藤 秀紹, 粕谷 亮美(編) |
| 30 | ピリオバルハンドブック | ピリオバル普及委員会(編著) |
| 31 | バナナの世界史：歴史を変えた果物の数奇な運命 | ダン・コッペル |
| 32 | ブロードキャスト = Broadcast | 湊 かなえ |
| 33 | 日本史の内幕 | 磯田 道史 |
| 34 | ヤタガラス(下町ロケット4) | 池井戸 潤 |
| 35 | 未来を読む：AIと格差は世界を滅ぼすか | ジャレド・ダイヤモンド |
| 36 | 歴史の愉しみ方 | 磯田 道史 |
| 37 | 天災から日本史を読みなおす | 磯田 道史 |
| 38 | ミツバチ大量死は警告する | 岡田 幹治 |
| 39 | 工業英検準2級問題集：過去試験問題収録 | 日本工業英語協会(編著) |
| 40 | 沈黙のノバレード | 東野 圭吾 |
| 41 | 愛なき世界 | 三浦 しをん |
| 42 | 医薬品企業の研究開発戦略：分離する研究開発とバイオ技術の台頭 | 宮重 徹也, 藤井 敦 |
| 43 | 企業との協働によるキャリア教育：私たちは先輩社会人の背中から何を学んだのか | 宮重 徹也 |
| 44 | 医薬品業界のしくみ | 宮重 徹也 |
| 45 | 宮沢賢治の元素図鑑：作品を彩る元素と鉱物 | 桜井 弘 |
| 46 | 思い出が消えないうちに | 川口 俊和 |

| No. | 書名 | 著者等 |
|-----|---|------------------------------------|
| 47 | Python機械学習プログラミング：達人データサイエンティストによる理論と実践 | Sebastian Raschka, Vahid Mirjalili |
| 48 | UnityではじめるC# | 大槻 有一郎 |
| 49 | Pythonスタートブック：いちばんやさしいPythonの本 | 辻 真吾 |
| 50 | 詳細Python3入門ノート | 大重 美幸 |
| 51 | 医薬品企業の経営戦略：企業倫理による企業成長と大型合併による企業成長 | 宮重 徹也 |
| 52 | 確率ロボティクス | セバスチャンズラン、ウルフラム・バーガー、データー・フォックス |
| 53 | 自律ロボット概論 | ジョージ A.ペーキー |
| 54 | 仕事としての学問：仕事としての政治 | マックス・ウェーバー |
| 55 | 戦争と資本主義 | ヴェルナー・ゾンバルト |
| 56 | 菜根譚 | 洪自誠 |
| 57 | ホムールデンス：文化のもつ遊びの要素についてのある定義づけの試み | ヨハン・ホイジンガ |
| 58 | 日本の文章 | 外山 滋比古 |
| 59 | 目に見えないもの | 湯川 秀樹 |
| 60 | 物理講義 | 湯川 秀樹 |
| 61 | 日本の土偶 | 江坂 輝彌 |
| 62 | 考え方の論理 | 沢田 允茂 |
| 63 | 漢文法基礎：本当にわかる漢文入門 | 加地 伸行 |
| 64 | 進化とは何か | 今西 錦司 |
| 65 | 出雲神話の誕生 | 鳥越 憲三郎 |
| 66 | 中国文学入門 | 吉川 幸次郎 |
| 67 | 西田幾多郎の思想 | 小坂 国継 |
| 68 | 数学の歴史 | 森 毅 |
| 69 | 歎異抄 | 梅原 猛(全訳注) |
| 70 | 地図の歴史：世界篇・日本篇 | 織田 武雄 |
| 71 | 氷川清話 | 勝 海舟 |
| 72 | 知的生活 | P.G.ハマトン |
| 73 | 本を読む本 | M.J.アドラー、C.V.ドーレン |
| 74 | 鏡の中の物理学 | 朝永 振一郎 |
| 75 | 聖遺物崇敬の心性史：西洋中世の聖性と造形 | 秋山 聰 |
| 76 | 宮中五十年 | 坊城 俊良 |
| 77 | 中世都市：社会経済史的試論 | アンリ・ビレンス |
| 78 | 差別の超克：原始仏教と法華経の人間観 | 植木 雅俊 |
| 79 | 語りかける身体：看護ケアの現象学 | 西村 ユミ |
| 80 | ゲノムが語る生命像：現代人のための最新・生命科学入門 | 本庶 佑 |
| 81 | 長流の畔(流転の海：第8部) | 宮本 輝 |
| 82 | 影の現象学 | 河合 隼雄 |
| 83 | 日本文化の形成 | 宮本 常一 |
| 84 | 塩の道 | 宮本 常一 |
| 85 | 近代科学を超えて | 村上 陽一郎 |
| 86 | 数学的思考 | 森 毅 |
| 87 | 京都の平熱：哲学者の都市案内 | 鷺田 清一 |
| 88 | 日本神話と古代国家 | 直木 孝次郎 |
| 89 | ガリア戦記 | カエサル |
| 90 | 醒睡笑 | 安楽庵 策伝 |
| 91 | 論語新釈 | 宇野 哲人 |
| 92 | 星界の報告 | ガリョ・ガリレイ |
| 93 | 易の話：『易経』と中国人の思考 | 金谷 治 |
| 94 | ハンナ・アレント | 川崎 修 |
| 95 | 君主論 | ニッコロ・マキアヴェッリ |
| 96 | 出雲国風土記 | 萩原 千鶴(全訳注) |
| 97 | 人口から読む日本の歴史 | 鬼頭 宏 |
| 98 | 民俗学の旅 | 宮本 常一 |
| 99 | 日本の心 | 小泉 八雲 |
| 100 | 法華経を読む | 鎌田 茂雄 |
| 101 | 日本精神分析 | 柄谷 行人 |
| 102 | 科学者と世界平和 | アルバート・アインシュタイン |
| 103 | 寺山修司全歌集 | 寺山 修司 |
| 104 | 構造主義科学論の冒険 | 池田 清彦 |
| 105 | アフォーダンス入門：知性はどこに生まれるか | 佐々木 正人 |
| 106 | ソクラテスの弁明：クリトン | プラトン |
| 107 | 孫子 | 浅野 裕一 |

| No. | 書名 | 著者等 |
|-----|------------------------------|---------------------------|
| 108 | 群衆心理 | ギュスターヴ・ルボン |
| 109 | 「身」の構造：身体論を超えて | 市川 浩 |
| 110 | 暗号大全：原理とその世界 | 長田 順行 |
| 111 | オスマン帝国の解体：文化世界と国民国家 | 鈴木 薫 |
| 112 | 南方熊楠：地球志向の比較学 | 鶴見 和子 |
| 113 | 吉田松陰留魂録 | 吉田 松陰 |
| 114 | 空海の思想について | 梅原 猛 |
| 115 | 岡倉天心「茶の本」をよむ | 田中 仙堂 |
| 116 | 文字の書き方 | 藤原 宏、水田 光風(編) |
| 117 | 中国古代の文化 | 白川 静 |
| 118 | 庶民の発見 | 宮本 常一 |
| 119 | 茶と美 | 柳 宗悦 |
| 120 | シュリーマン旅行記清国・日本 | ハインリッヒ・シュリーマン |
| 121 | 音楽と言語 | T.G.ゲオルギアードス |
| 122 | 道徳を基礎づける：孟子 vs. カント、ルソー、ニーチェ | フランソワ・ジュリアン |
| 123 | 日本文学史 | 小西 甚一 |
| 124 | 民藝とは何か | 柳 宗悦 |
| 125 | 古事記とはなにか：天皇の世界の物語 | 神野志 隆光 |
| 126 | 日本語とはどういう言語か | 石川 九楊 |
| 127 | 日本語はどういう言語か | 三浦 つとむ |
| 128 | ベリリユー・沖繩戦記 | ユージン・B・スレッジ |
| 129 | 北欧神話と伝説 | V.グレンベック |
| 130 | 明治日本の面影 | 小泉 八雲 |
| 131 | こんなにも優しい、世界の終わりがた | 市川 拓司 |
| 132 | 死にたい、ですか | 村上 しいこ |
| 133 | 幕末の天皇 | 藤田 覚 |
| 134 | 日本仏教：思想のあゆみ | 竹村 牧男 |
| 135 | 東と西の語る日本の歴史 | 網野 善彦 |
| 136 | 道徳感情論 | アダム・スミス |
| 137 | 森鷗外の「智慧袋」 | 森 鷗外 |
| 138 | 夢酔独言 | 勝 小吉 |
| 139 | 日本芸能史六講 | 折口 信夫 |
| 140 | 経験と教育 | ジョン・デューイ |
| 141 | 往生要集を読む | 中村 元 |
| 142 | 英国外交官の見た幕末維新 | A. B. ミットフォード |
| 143 | 日本書紀の世界 | 山田 英雄 |
| 144 | ソビエト連邦史：1917-1991 | 下斗米 伸夫 |
| 145 | 鉄から読む日本の歴史 | 窪田 蔵郎 |
| 146 | 魔術から数学へ | 森 毅 |
| 147 | 怪談・奇談 | 小泉 八雲 |
| 148 | 中国旅客列伝 | 井波 律子 |
| 149 | 幕末日本探訪記：江戸と北京 | ロバート・フォーチュン |
| 150 | 天才数学者はこう解いた、こう生きた：方程式四千年の歴史 | 木村 俊一 |
| 151 | 養生訓 | 貝原 益軒 |
| 152 | 「出雲」という思想：近代日本の抹殺された神々 | 原 武史 |
| 153 | ひとはなぜ戦争をするのか | アルバート・アインシュタイン、ジグムント・フロイト |
| 154 | 権力と支配 | マックス・ウェーバー |
| 155 | 論語物語 | 下村 湖人 |
| 156 | 日本近代科学史 | 村上 陽一郎 |
| 157 | ニッポン | ブルーノ・タウト |
| 158 | 妖怪談義 | 柳田 国男 |
| 159 | 漢詩鑑賞事典 | 石川 忠久 |
| 160 | 常陸国風土記 | 秋本 吉徳(全訳注) |
| 161 | 神々の国の首都 | 小泉 八雲 |
| 162 | アウシュヴィッツ収容所 | ルドルフ・ヘス |
| 163 | 大鏡：全現代語訳 | 保坂 弘司 |
| 164 | 世界探検史 | 長澤 和俊 |
| 165 | 秦漢帝国：中国古代帝国の興亡 | 西嶋 定生 |
| 166 | 朝鮮紀行：英国婦人の見た李朝末期 | イザベラ・バード |
| 167 | 荻生徂徠「政談」 | 荻生 徂徠 |
| 168 | キリスト教問答 | 内村 鑑三 |

新着図書一覧 (平成30年7月~12月)

| No | 書名 | 著者等 |
|-----|----------------------------|-------------------------|
| 169 | 草原のcock-オーヴァン | 柴田 よしき |
| 170 | 四月になれば彼女は | 川村 元気 |
| 171 | とるとだす | 高田 恵 |
| 172 | もう一杯だけ飲んで帰ろう。 | 角田 光代, 河野 丈洋 |
| 173 | この恋は世界でいちばん美しい雨 | 宇山 佳佑 |
| 174 | ボクたちはみんな大人になれなかった | 燃え殻 |
| 175 | ふたご | 藤崎 彩織 |
| 176 | AX (アックス) | 伊坂 幸太郎 |
| 177 | さざなみのよる | 木皿 泉 |
| 178 | インフルエンス | 近藤 史恵 |
| 179 | ランチ酒 | 原田 ひ香 |
| 180 | 深夜航路：午前0時から始まる船旅 | 清水 浩史 |
| 181 | 巨大ブラック企業 | 佐高 信 |
| 182 | マインドフルネス：基礎と実践 | 貝谷 久直, 熊野 宏昭, 越川 房子(編著) |
| 183 | サイエンス・ネクスト：科学者たちの未来予測 | ジム・アル＝カーリー(編) |
| 184 | デジタル・エイブ：テクノロジーは人間をこう変えていく | ナイジェル・シボット&ロジャー・ハブマン |

| No | 書名 | 著者等 |
|-----|-------------------------------------|----------------------|
| 185 | 土の文明史：ローマ帝国、マヤ文明を滅ぼし、米国、中国を衰退させる土の話 | デイビッド・モントゴメリー |
| 186 | 土と内臓：微生物がつくる世界 | デビッド・モントゴメリー、アン・ビクラー |
| 187 | 木材と文明 | ヨアヒム・ラートカウ |
| 188 | 億男 | 川村 元気 |
| 189 | 羊と鋼の森 | 宮下 奈都 |
| 190 | こんな夜更けにバナナかよ：筋ジストロフィーとボランティアたち | 渡辺 一史 |
| 191 | ニコライの見た幕末日本 | ニコライ |
| 192 | 植物知識 | 牧野 富太郎 |
| 193 | 遊びと人間 | ロジェ・カイヨワ |
| 194 | 自警録：心のもちかた | 新渡戸 稲造 |
| 195 | 明治・大正・昭和政界秘史：古風庵回顧録 | 若槻 禮次郎 |
| 196 | 龍樹 | 中村 元 |
| 197 | 慈悲 | 中村 元 |
| 198 | 東洋のこころ | 中村 元 |
| 199 | 傍らにいた人 | 堀江 敏幸 |
| 200 | 世にも奇妙な君物語 | 朝井 リョウ |

2018年度 文化セミナー報告

2018年度の米子高専の文化セミナーは、第1回 5月27日(日)、第2回 6月24日(日)、第3回 10月28日(日)、第4回 11月18日(日)に行われました。会場は全て、米子市福祉保健総合センター ふれあいの里会場でした。今年度よりこちらを利用するようになりましたが、駐車場にゆとりがありおおむね好評でした。第1回は電子制御工学科 角田直輝先生による「多様な光デバイス応用における非工学的観点：光物性の卓近さ」、第2回は電子制御工学科 中山繁生先生による「米子高専の医工連携への取り組み」、第3回は教養教育科 酒井康宏先生による「小泉八雲(ラファカディオ・ハーン)と鳥取県」、第4回は教養教育科 原田桃子先生による「“移民問題”を考える～イギリスの移民政策を例にして～」でした。各講師の先生方は、パワーポイントやレジュメを用いて、時事問題や地域話題を盛り込みつつ、研究成果を分かりやすく話して頂きました。これからも米子高専は文化セミナーを通して、地域に貢献して行きたいと考えています。来年度も是非ご来場ください。なお、会場はふれあいの里以外に、米子市立図書館で開催する回もある予定です。

「高専生が選ぶ18冊」

—国語科・社会科による、図書館と連携しての読書推進事例の紹介—

教養教育科 渡邊 健

1. いきさつ

前回の『としょぶらり』(第105号)で、今年度(平成30年度)の前期に行った、国語科・社会科による「読書カード」取り組み事例を紹介しましたが、今回の試みはそれに続くものです。

「読書カード」導入の目的として、最後に、

- ③ 「読書カード」に書かれた感想のうち、よいものを「としょぶらり」に掲載(匿名)したり、図書館の掲示物に利用したりすることで、紹介された本に学生が興味を持ち、読書への関心がさらに高まるといった効果も期待している。

と述べていましたが、今回は図書館に展示するPOPに

「読書カード」を利用しました。

「読書カード」は、本校の1～3年生(約600人)に、前期中間試験前と期末試験前の2回提出してもらい、その結果、質のよいブックレビューが多数集まりました。そこで、これをもとに、手作りのPOPを作成して図書館内に展示し、学生から学生に向けておすすめの本を紹介し、本との出会いをつくり出す場として図書館を活性化させようということになりました。幸いにして、美術同好会の学生から協力が得られることになり、オープンキャンパス、また高専祭(文化の部)の際に、作品を展示できるように準備を進めました。

2. 第1回実施 オープンキャンパス

「読書カード」を前期中間試験前に回収し、国語科・社会科の教員がよいと思うものをピックアップした中から、(科・学年・氏名の欄を切り離した上で)美術同好会の部員に18冊を選んでもらいました。そして、「高専生が選ぶ18冊」として、図書館の交流プラザ内で美術同

好会作成のPOPと、その本とを並べて展示し、8/10・11のオープンキャンパスで来校する中学生や保護者の方に見ていただくことになりました。「読書カード」に書いた内容をPOPに利用することについては、対象となる全員の学生から許可を得ることができました。

旧暦の七夕が近いので、展示のモチーフは七夕ということで美術同好会に依頼しました。有難いことに、E科の庄倉先生から本物の竹をいただきましたので、当日は図書館内に本格的な七夕の飾りつけをすることができ、来校された中学3年生たちや保護者の方々が短冊に願い事を書いたりしていました。彼らが図書館でPOPを見るだけでなく、紹介されている本を実際に手に取って読む姿も見られました。

また、オープンキャンパスに来校する中学3年生は、本校の受験を考えている人も多いので、美術同好会に依頼して、「高専御守」も作ってもらっていましたが、これが大好評でした。なお、POPの方は、学生が本に興味を持つきっかけとしてとてもよいので、オープンキャンパスが終わっても図書館でしばらく使わせてほしいと頼まれ、夏休みの終わりまで展示が延長になりました。

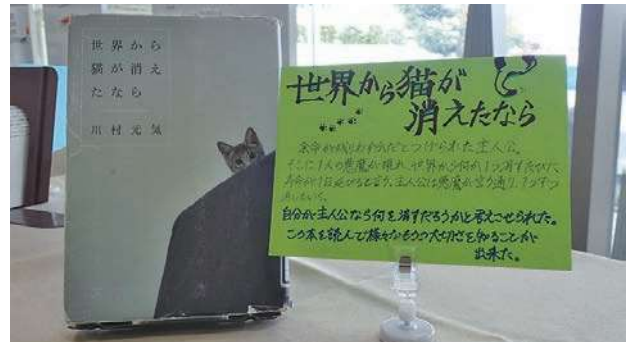


3. 第2回実施 高専祭(文化の部)

その後、図書館長の布施先生から、この企画の第2弾をしてみてもどうかのお話がありました。美術同好会の学生と、顧問の高増先生に打診したところ、了解が得られたので、11/2・3の高専祭(文化の部)の際に実施することになりました。第1回の時と同様、前期末試験前に回収した「読書カード」からよいと思われるものを選び、美術同好会にPOP作成を依頼しました。

展示のモチーフは「ハロウィン」ということで、美術

同好会にジャック・オー・ランタンや魔女などの飾り付けをしてもらいました。2回目であったためか、彼らの制作したPOPも、本の表紙の体裁に合わせて作られていたりして、本とPOPが並べられた時に、見る人の眼に訴えるものになっていたと思います。また、POPで紹介した本の内容に関するクイズを4枚のホワイトボードに掲示し、来場者の興味を引きつける工夫もなされていました。今回の「高専生が選ぶ18冊」も好評だったため、高専祭終了後もしばらく展示されることになったのは嬉しいことでした。



4. 成果と今後の課題

図書館で、学生から学生に向けて本の紹介をする今回の企画は、よい効果につながったと思います。夏休み明けに1年生の読書感想文を点検していたところ、学生がその本を読んだきっかけが、「高専生が選ぶ18冊」のPOPだったというものがありません。その人は、図書館に置かれているその本が以前から気になっていましたが、展示されていた「ポップを読んでより興味をそそられました」ということです。

また、高専祭が終わった後も、「高専生が選ぶ18冊」のコーナーは展示場所を変えて続けられていましたが、ある日、私とそのコーナーを見ると、貸出中になっている本が大半で、予想以上の効果に驚きました。展示場所が、閲覧室に本を借りに来た学生の目につきやすい位置にあったせいもあるでしょうが、やはり美術同好会のセンス溢れるPOPが人を惹きつけたのでしょうし、きっかけさえあれば、本を手にとって読みたいという人は多いことに改めて気づきました。

今後は、同じような企画をぜひ、学生自ら立案・実施してもらいたいと思っています。たとえば、図書委員会などが主体となって、学生が学生に本の魅力や読書の楽しさを発信し、図書館を今以上に活性化させてくれることを期待しています。

ブックハンティングに参加して

図書委員 電子制御工学科 2年 河津 雄大




今回のブックハンティングに参加して一番面白いと思ったことは、選ぶ本が人によってジャンルも作者もかなり違ったということです。こうやって本をある程度自由に選ぶと、その人の性格や趣味が入ってきて本にもそれが現れてくるのは普通のことだけれども面白いと思いました。自分が読むため以外に本を選ぶことは初めてだったので、いつもとはまた違った視点で本を見ることができました。今回のブックハンティングは、自分が普段どんな本を読んでいてどんなジャンルが好きかを改めて知るいい機会になりました。今回選ばれた本が多くの人に読んでもらえるとうれしいです。

図書委員 電気情報工学科 2年 北中 祐太

今回のブックハンティングはいい経験になりました。自分は本屋に行くと同じコーナーにしかないことが多いです。しかし今回は自分の為ではなく学校の図書館に置くということでのどのような本がいいのかということに悩みました。普段は漫画や雑誌、旅行のガイド本しか手に取らないのでノンフィクションやそのほかの小説を選ぶようにもなかなか選べませんでした。しかし、普段行かないコーナーに行き本を手にとってみると気になるような本が何冊も見つけれられるようになりました。今回の活動の後から本屋で本を探すときに小説のコーナーにも足を延ばすようになりました。またこのような活動があれば積極的に参加していきたいです。

第6回ビブリオバトル(平成30年12月19日(水))

結果

| | | | |
|---|---------------|------------|---------------|
|  | チャンプ本 | 電子制御工学科 2年 | 佐々木 颯太 |
|  | 準チャンプ本 | 建築学科 2年 | 本田 朔也 |
|  | 準チャンプ本 | 電子制御工学科 4年 | 渡邊 弘大 |

ビブリオバトル感想

チャンプ本 電子制御工学科 2年 佐々木 颯太

皆さんはビブリオバトルの「ビブリオ」の意味を知っていますか。ビブリオとはラテン語で本を意味します。

ビブリオバトルというのはみんなの前で発表者が持ち寄った本を紹介しあうということです。

今回初めて参加して「ビブリオバトル 本を知り人を知る書評ゲーム」という本をビブリオバトルで紹介しました。人前で話す事は得意だったので、この本で伝えたいことを楽しく紹介することが出来ました。

また、他の発表者の本の紹介を聞いて知らない本に出会い興味を持つこともできました。

ビブリオバトルを通して本を読みきっかけになり書店や図書館に行ったとき気になる本を見つけると自分ならこう紹介するかなと考えたりするようにもなりました。ビブリオバトルは自分にとっても良い経験になりました。

図書委員長 機械工学科 3年 粟谷 壮良

皆さんは、ビブリオバトルに参加したことがありますか？自分は高専に入るまで知りませんでした。今回自分は係の一員として参加しました。発表時間5分間というのは長いなと思っていました。正直なところ参加者が集まるかどうか不安でしたが、締め切りまでに定数以上の人数が集まり安心しました。5分間という時間は話を聞いていたらあっという間に過ぎていきました。

ところで、皆さんはビブリオバトルについてどういうイメージを持っていますか？話を聞くだけだからつまらないと思いませんか？自分も参加するまであまり良いイメージを持っていませんでした。ですが、今回参加してイメージが変わりました。時間を計る係でしたが、時間を見るのを忘れてしまうぐらい面白かったです。聞いているだけでも楽しかったです。

今回のビブリオバトルも盛り上がりました。今回のビブリオバトルが成功したのは、参加者や観覧者の人達と積極的に動いてくれた委員会の人達のおかげだと思います。

皆さんが少しでもビブリオバトルに興味を持ってもらえるかと嬉しいです。少しでも興味がでたら、話を聞くだけでも良いので参加してみてください。